

平成22年2月3日  
鹿児島地方気象台  
長崎海洋気象台

## 平成22年2月1日に鹿児島県薩摩川内市上甕町で発生した 顕著な海面昇降（副振動）に関する現地調査報告

平成22年2月1日の午前中を中心に、九州西岸から奄美地方にかけて顕著な海面昇降（副振動）が発生し、鹿児島県薩摩川内市上甕町瀬上地区で、同日8時50分、住家2棟・非住家（空家）1棟の床下浸水被害が発生しました（鹿児島県のまとめによる）。

このため、鹿児島地方気象台と長崎海洋気象台では、2月2日から3日にかけて職員3名を「気象庁機動調査班」として現地に派遣し、副振動に関する調査を実施しました。調査の概要、これまでに得られた調査結果等は以下のとおりです。

### 1 調査期間及び調査地点

調査期間：平成22年2月2日から3日まで

調査地点：鹿児島県薩摩川内市上甕町瀬上地区（小島漁港を含む）

### 2 調査実施機関

鹿児島地方気象台（1名）

長崎海洋気象台（2名）

### 3 調査内容

浸水のあった地域における浸水痕跡の測定、聞き取り調査などを行い、浸水地域における最高潮位の高さや時間経過、目撃された海面昇降の山から谷の高さの推定等を行いました。

### 4 最高潮位の高さ、海面昇降の山から谷の高さに関する主な調査結果

鹿児島県薩摩川内市上甕町瀬上地区では住家の床下浸水等の被害発生時刻に近い1日9時10分頃に最高潮位が標高約2.0mに達していたと推定しました。

また、聞き取り調査等により海面昇降の山と谷の位置が推定できた7時30分頃の副振動では、海面昇降の山から谷の高さが約1.6mに達していたと推定しました。

今回の浸水は、大潮の満潮時間帯であったこと、低気圧の接近で潮位が上昇していたこと、さらに副振動の振幅が大きくなったことが重なり、一時的に潮位が非常に高くなったことにより発生したと考えられます。

なお、この地域の近傍の検潮所で観測した海面昇降の山から谷の最大の高さは、枕崎検潮所で2月1日10時7分に56cm（周期17分）、また長崎検潮所では同日11時39分に78cm（周期38分）でした。

別紙に、現地調査の結果と参考資料を掲載します。

※ この資料に掲載した値はいずれも速報値ですので、後日修正することがあります。

#### 【本件に関する問い合わせ先】

鹿児島地方気象台防災業務課

電話：099-250-9919

長崎海洋気象台海洋課

電話：095-811-4865

## 【調査地点及び状況】



図中のA、Bは、調査の実施場所



写真1 副振動の影響で冠水した突堤(A地点)  
(薩摩川内市上甑支所提供)



写真2 左の写真と同地点における  
現地調査の様子

## 【潮位の推定結果】

薩摩川内市上甑町小島漁港における海面昇降の推定 (A地点)

◎最高潮位の高さ

標高：約2.0m (9時10分頃)

(写真1、2の突堤上面から約0.2mの高さに相当)

◎海面昇降の山から谷の高さの最大値：約1.6m (7時30分頃)

◎周期：10～15分 (10時15分～10時40分の潮位の目視による確認)

## 【聞き取り調査結果】

薩摩川内市上甑町小島漁港 甑島漁協職員の話 (A地点)

・9時頃、湾内で海水が大きな渦を巻いていた。9時10分頃、潮位が最も高くなった。

薩摩川内市上甑町瀬上地区住民の話 (B地点)

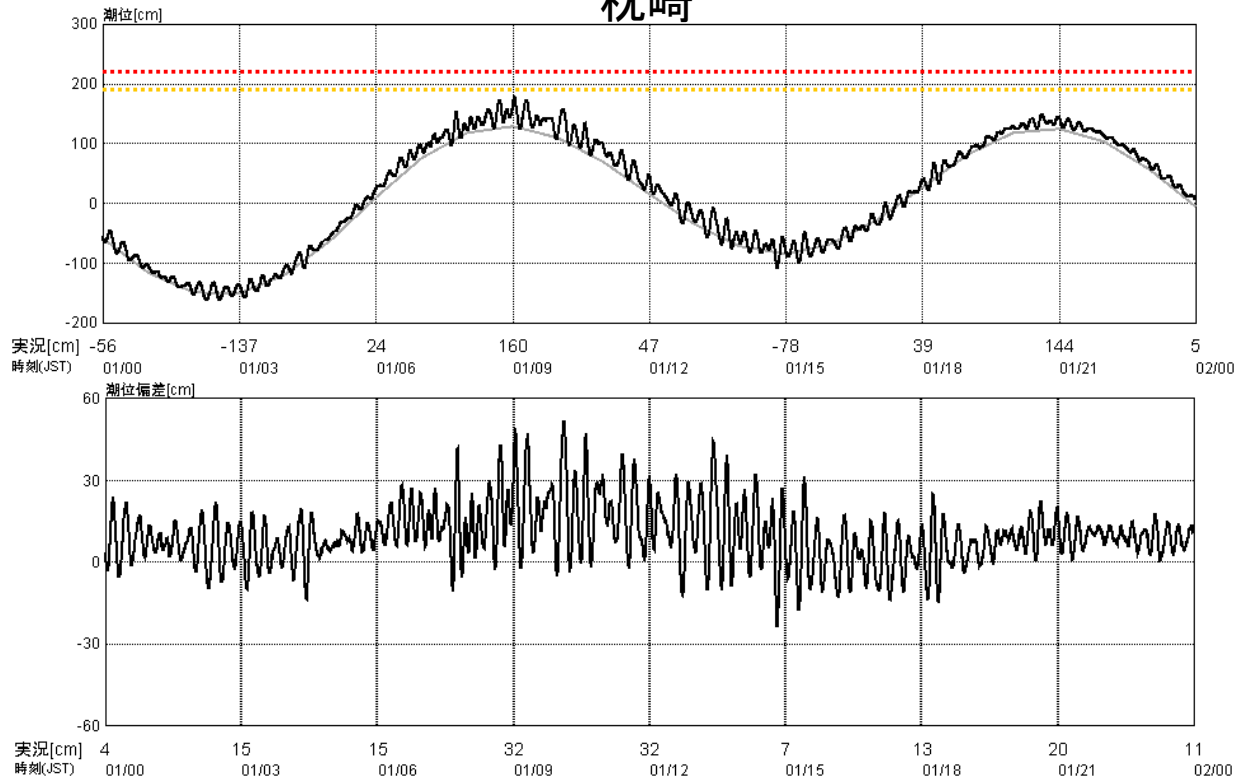
・9時頃、瀬上川を海水が逆流してあふれ出し、低い所に流れ込んで来た。勝手口が7cmくらい浸水した。

## 謝意

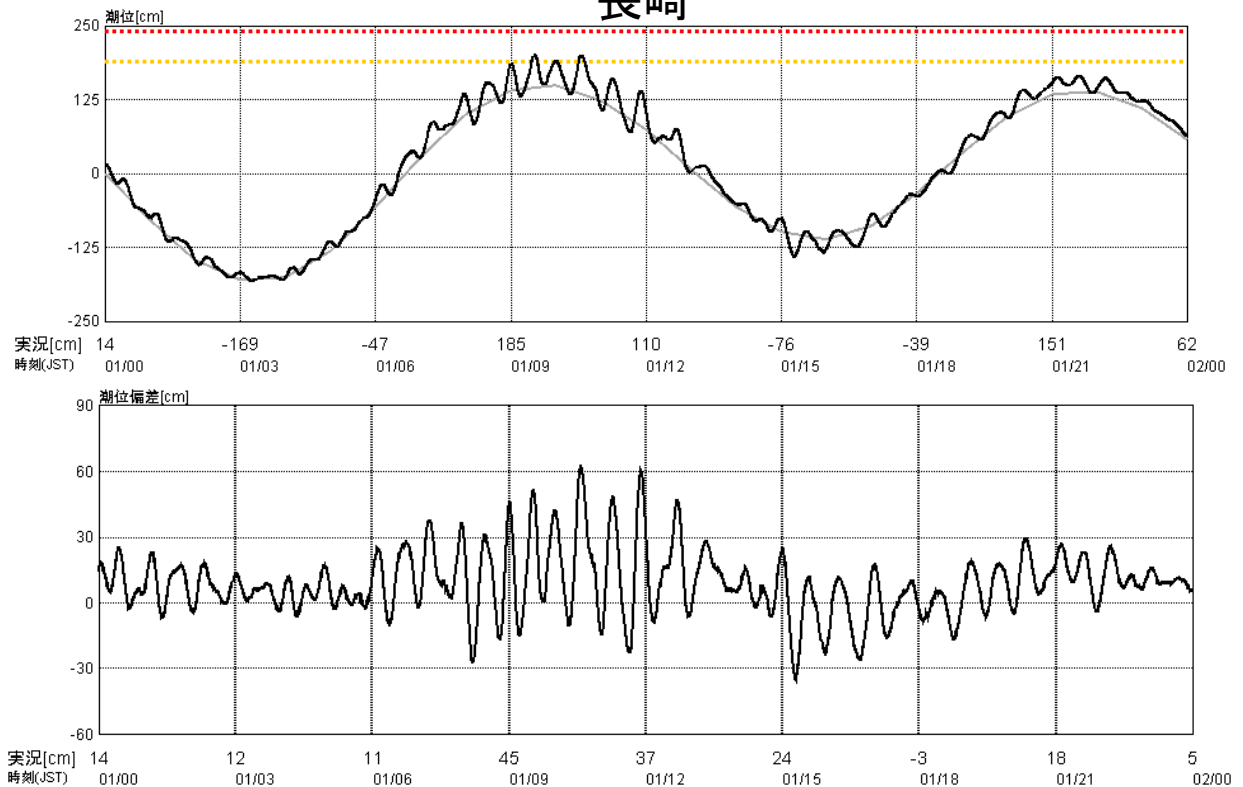
この資料を作成するにあたり、薩摩川内市上甑支所(鹿児島県)、甑島漁協、市消防署上甑分駐所、住民の方々、及び鹿児島県にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

【参考資料】

### 枕崎



### 長崎



平成 22 年 2 月 1 日 0 時から 24 時までの枕崎（鹿児島県）と長崎（長崎県）における潮位および潮位偏差の変化を示す。それぞれの地点の上段は潮位（標高）、下段は潮位偏差（実測潮位と天文潮位の差）で、副振動の大きさの変化がわかる。赤点線は高潮警報基準、黄点線は高潮注意報基準を表す。